

Si-R GX500 V01.02 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	追加内容
1	機能追加	<p>V01.02にて、以下の機能を追加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> •EtherIP、L2TPv3機能 •RA送信機能 •DHCPv6リレー機能 •DHCPv4/v6サーバ機能 •NAT機能 •BFD機能 •L2QoS機能 •SPI機能 •ダイナミックフィルタ機能 •SCP/SFTP機能 •DVPN機能 •フロー制御 •GREトンネル機能 •USB通信ドングル機能 •DNSサーバ、リレー機能 •IDS機能 •イベントアクション機能 •接続先監視機能 <p>以下の機能追加を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> •IPinIP機能 : inner IPv6対応 •IPsec機能 : RADIUS Tunnel-PasswordでPSK通知 •VRRP機能 : IPv6対応 •L3QoS機能 : LAGサポート、VLANプライオリティマッピング •データコネク: マルチダイヤル機能/回線障害検知処理追加
2	IPsec機能	端末接続監視downによるSA削除がISAKMP統計情報でカウントされるようにする
3	パケット中継処理部	Q-in-Qタグ終端機能を追加する。
4	QoS機能(自宛優先制御部)	<p>V01.02で対応された機能(プロトコル)のパケットを自宛優先制御に対応させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> •SCP/SFTP対応 (ポリサーID:1) IPv4 tcp 22 (SSH) IPv6 tcp 22 (SSH) •DHCPv6サーバ・リレー対応 (ポリサーID:0) IPv6 udp 546, 547 (DHCP) •DNSサーバ・リレー対応 (ポリサーID:1) IPv4 udp/tcp 53 (DNS) •DVPN対応 (ポリサーID:2) IPv4 udp/tcp 5060, 5070 (SIP) IPv6 udp/tcp 5060, 5070 (SIP)
5	show tech-support	show tech-supportにcrump kernel関連情報を追加
6	multicastフレーム中継部	reserved multicastフレームの透過設定をSi-R Gシリーズに合わせる
7	インタフェースデーモ	最大サブインタフェース数を1024→4096に拡張する
8	CLI機能	tunnel mode、tunnel profile mode 設定を変更したときメッセージを表示し、commit時にはsyslogを記録する。
9	インタフェースデーモン	物理インタフェースがdownしてもアドレスが消えないようにする要望事項へ対応するため、port-channelにalways-up機能を追加する。
10	ARP/ND処理部	ARP/NDの先行解決処理を抑制する機能を追加する
11	ファーム・構成定義機能	<p>ファームバージョンダウン時の動作仕様を下記のように変更する。</p> <p>V01.01以前:バージョンダウン時に起動構成定義パスの登録を解除する</p> <p>V01.02以降 :バージョンダウン時に起動構成定義パスの登録は解除しない(これに伴い、構成定義はクリアされない)</p>
12	IPsec処理部、データコネク処理部	IPsecとデータコネク/DVPN 各情報を紐付けて表示するコマンド show crypto map を追加する。
13	データコネク処理部	データコネク機能で回線側の障害で機能が使用できない場合のシスログを追加する。
14	接続先監視機能	1.端末接続監視(survey)による監視パケットのデフォルトサイズを64→32byteに変更する。
15	DHCPv4サーバ機能、リレー機能	DHCPv4サーバ機能を停止・起動するコマンドを追加する。
16	RIPモジュール	IPsec tunnel でのRIPv2をサポートする
17	CLI機能	prompt timestamp 設定を有効化した状態でCLIコマンドを実行したときに表示されるCPU使用率をCPU毎に表示するようにする。

18	rump kernel	show network-stack bufferコマンドの表示にカウンタ情報を追加する。
19	接続先監視機能(設定コマンド)	接続先監視機能でtunnelインタフェースと同期を行う場合の送信元インタフェースとしてtunnelを送信元インタフェースを指定可能とする。
20	IPinIPトンネル機能	IPinIPトンネルのsource address にtunnelインタフェースのアドレスも指定できるようにする。
21	SSHサーバ機能	SSHサーバ(SSHv2)でデフォルトで使用可能な暗号化方式をAES カウンタモードのみとする
22	IPsec機能、データコネクタ機能	IPsec接続・切断コマンドを追加する
23	PPPoEクライアント機能	PPPoE の再接続間隔を即時→60秒間待つようにする

□修正内容

No.	影響範囲	
1	V01.00 V01.01	装置電源投入時にUSBデバイスを認識できない場合がある。
2	V01.00 V01.01	PPPoEセッションがdownしている状態で、当該tunnel設定を削除してもtunnelのカウンタ情報がクリアされない
3	V01.00 V01.01	no ip vrrp advertise_delay_timer [＜遅延時間＞] 設定のシンタックスがマニュアル記載と異なり、＜遅延時間＞ のパラメタまで入力するとエラーとなってしまふ。
4	V01.00 V01.01	connected経路よりもlongest-matchする経路が存在する場合、送信元アドレス 0.0.0.0 で送信するUDPパケットが送信インタフェース設定に従わない。
5	V01.00 V01.01	未サポートの設定コマンドが残っているため、削除する。 <interface port-channelモード> ・bandwidth ・reservable-bandwidth ・te-metric ・ipv6 rip split-holizon <interface gigaethernetモード> ・ip vrf select source
6	V01.00 V01.01	PPPoEセッション確立状態から、物理回線(GigaEthernet)をDown→Upさせて、PPPoEセッションDown→Upと変化させた場合に、show pppoe session および show pppoe session summary の表示がEstablishとならない。実際にはEstablishとなっていて、show pppoe session/show pppoe session summary の表示のみが不正という状態になる。
7	V01.00 V01.01	IPinIPトンネルで使用するtunnelインタフェースでマーキングを行うservice-policy設定を入れてcommitしたところ、下記のログが表示され有効化されない。 lpm[2798]: tunnel 301: "service-policy output PMAP_MARK_TUN" is not supported, ignored.
8	V01.00 V01.01	設定変更(no router ipv6 ospf)を反映させてVRRPプロセスが再起動した後、show vrrp コマンドを実行すると一部のVRRP設定の情報が表示されなくなる。
9	V01.00 V01.01	設定変更(router rip, router ospf, router ipv6 ospf の追加・削除繰り返し)のランニング中にospfdのcoreが作成されることがある。
10	V01.00 V01.01	設定変更後に ospf6d のcoreが作成されることがある。
11	V01.01	NATの内側にあるWindows端末より、GX500(NAT設定あり)をGWとしてインターネットに対してtracertを実行した場合、途中の経路がタイムアウトする。
12	V01.00 V01.01	logging suppress-repeated 設定で出力抑制したログの末尾が不定な文字列となる。